

Intangible Investment in Japan: New Estimates and Contribution to Economic Growth

深尾京司(一橋大学)
宮川努(学習院大学)
迎堅太郎(内閣府)
篠田由紀夫(内閣府)
外木好美(一橋大学)

要旨

本論文の目的は、無形資産を計測して、無形資産の資本ストック作成し、無形資本の日本の経済成長への寄与を調べることである。ここでは Corrado, Hulten and Sichel(2005、2006)の手法にならい、日本産業生産性(JIP)データベースの2008年版を利用して無形投資を計測する。日本における無形投資の対GDP比率が過去20年間上昇し、現在は11.6%であることがわかった(これは2000年代前半のアメリカよりも低い)。また、日本における無形投資の対有形投資比率もアメリカよりも低い。さらに、アメリカでは1990年代後半に無形資本が急速に伸びたのとは対照的に、日本では1980年代後半から2000年代前半に低下したことがわかった。この結果の頑強性を調べるために感度分析を行ったところ、1990年代後半以降において、経済成長に対する無形資本深化の寄与度の低下、全要素生産性の伸びの回復は、職場内教育と企業固有の資源への投資に関する日本のデータを考慮してもベースケースと変わりがないことがわかった。